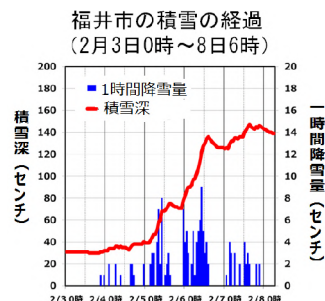


2018年（平成30年）の日本の天候（速報）

2018年（平成30年）の日本の天候の特徴：

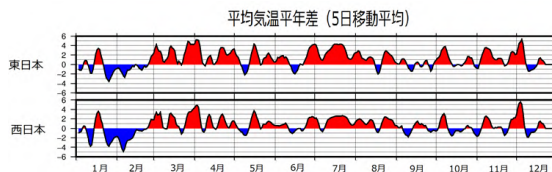
冬（2017年12月～2018年2月）は全国的に低温となり、北陸地方中心に大雪となった

冬は、日本付近にはしばしば強い寒気が南下し、冬の平均気温は全国的に低く、特に西日本では平年差-1.2と過去32年間で最も低くなった。日本海側では北陸地方を中心に大雪になり、交通障害が発生した。



春から夏にかけては東・西日本中心に記録的な高温となった

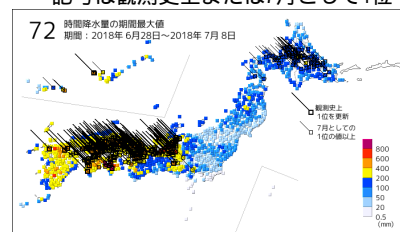
春から夏にかけては、東・西日本中心に気温のかなり高い状態が続き、記録的な高温となった。特に夏は多くの地方で梅雨明けがかなり早く、厳しい暑さが続いた。熊谷では7月23日に41.1の国内歴代1位の高温を記録した。東日本では、春の平均気温（平年差+2.0）、夏の平均気温（平年差+1.7）ともに1946年の統計開始以来最も高く、年平均気温（平年差+1.1）も1946年の統計開始以来最も高くなった。



「平成30年7月豪雨」の発生により西日本中心に記録的な大雨となった

7月上旬は、本州付近に梅雨前線が停滞し、南から大量の湿った空気が流れ込んだため、西日本中心に数日にわたり記録的な大雨となった。土砂災害や河川の氾濫など甚大な被害が発生した。

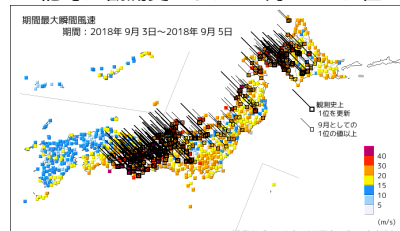
72時間降水量の期間最大値(6.28～7.8)
記号は観測史上または7月として1位



台風第21号、第24号の接近・通過に伴い各地で暴風、高潮となった

9月上旬に台風第21号が非常に強い勢力で徳島県南部に上陸したのち近畿地方を北上した。また、台風第24号が9月下旬に沖縄地方に接近した後、西日本から北日本を縦断した。これらの台風の接近・通過に伴い、広い範囲で暴風や高潮となった。

期間最大瞬間風速(9.3～9.5)
記号は観測史上または9月として1位



本資料は、全国153地点の气象台等における12月20日までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。12月31日までの観測データによる資料は平成31年1月4日に発表します。

1 概況

冬（2017年12月～2018年2月）は西日本中心に全国的に低温となったが、春から夏にかけては東・西日本中心に記録的な高温になったことから、年平均気温は、全国的に高く、特に東日本では平年差+1.1 と1946年の統計開始以来最も高かった。年降水量は、東日本太平洋側で平年並のほかは多く、春から夏に低気圧や前線の影響を受ける日が多かった北日本日本海側や「平成30年7月豪雨」、台風、秋雨前線の影響で度々大雨となった西日本太平洋側ではかなり多かった。年間日照時間は、北日本は平年並だったが、移動性高気圧や太平洋高気圧に覆われ顕著な多照となる時期があった東・西日本、沖縄・奄美ではかなり多く、東日本太平洋側では平年比112%と1946年の統計開始以来2013年と並んで第1位の多照となった。

季節別の特徴は以下のとおり。

【冬】

冬（2017年12月～2018年2月）は、日本付近に強い寒気の流れ込むことが多かったため、全国的に冬の平均気温は低く、特に西日本は平年差-1.2 と過去32年間で最も低くなった。北日本から西日本にかけての日本海側では発達した雪雲が日本海から盛んに流れ込み、北陸地方を中心に度々大雪になり、交通障害が発生した。福井では、最深積雪が147cmに達し、37年ぶりに140cmを超えた。北・東日本太平洋側でも低気圧の影響で大雪になった日があった。

【春】

春は、期間を通して暖かい空気に覆われやすかったため、全国的に春の平均気温はかなり高かった。特に東日本は平年差+2.0 と春としては1946年の統計開始以来最も高かった。東日本から沖縄・奄美にかけては、高気圧に覆われ晴れた日が多かったが、北日本から西日本にかけては、低気圧の通過時には南から湿った空気が流れ込み大雨となる日もあった。春の日照時間は、東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美でかなり多かった。春の降水量は、北・東日本日本海側でかなり多かった。一方、沖縄・奄美ではかなり少なかった。

【夏】

夏は、7月上旬に本州付近に梅雨前線が停滞し、南から大量の湿った空気が流れ込んだため、西日本中心に数日にわたり記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など甚大な被害が発生した（「平成30年7月豪雨」）。7月中旬以降は、太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しがともに強まり、多くの地方で梅雨明けがかなり早く、東・西日本中心に晴れて気温が顕著に上昇する日が多かった。7月23日には、熊谷（埼玉県）で日最高気温41.1 を記録して歴代全国1位となった。東・西日本は夏の平均気温がかなり高く、東日本では平年差+1.7 と1946年の統計開始以来最も高くなった。全国の気象官署153地点のうち48地点で夏の平均気温の高い方から1位の値（タイを含む）を記録した。一方、北日本日本海側は梅雨前線や秋雨前線の影響で、西日本太平洋側と沖縄・奄美は台風や梅雨前線の影響で記録的な大雨があったため、夏の降水量はかなり多く、沖縄・奄美では1946年の統計開始以来最も多くなった。

【秋】

秋は、日本の東海上で高気圧の勢力が強く、北からの寒気が南下しにくかったため、秋の平均気温は北・東日本で高かった。活発な秋雨前線と台風の影響で、秋の降水量は東日本から沖縄・奄美にかけて多かった。9月上旬には、台風第21号が非常に強い勢力で徳島県南部に上陸したのち近畿地方を北上した。9月下旬には、台風第24号が沖縄地方に接近した後、和歌山県田辺市付近に上陸し、西日本から北日本を縦断した。これらの台風の接近・通過に伴い、広い範囲で暴風、大雨、高潮、高波となった。

2 気温、降水量、日照時間の気候統計値

(1) 平均気温

年平均気温は、東日本でかなり高く、北・西日本と沖縄・奄美で高かった。横浜（神奈川県）など、25 地点で年平均気温の平年差が最高値を上回っており、仙台（宮城県）など3 地点で最高値と同じ値となっている。

(2) 降水量

年降水量は、北日本日本海側、西日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側、東・西日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。神戸（兵庫県）など3 地点で年降水量の平年比が最大値を上回っている。東日本太平洋側では平年並だった。

(3) 日照時間

年間日照時間は、東・西日本、沖縄・奄美でかなり多かった。秩父（埼玉県）など6 地点で年間日照時間の平年比が最大値を上回っており、神戸（兵庫県）など3 地点で最大値と同じ値となっている。北日本では平年並だった。

地域平均平年差（比）と階級（2018 年）（12 月 20 日までのデータによる）

	気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)
北日本	0.7 (+)	115 (+)* 日 119 (+)* 太 111 (+)	101 (○) 日 100 (○) 太 102 (○)	北海道	0.6 (+)	122 (+)* 日 122 (+)* 才 125 (+)* 太 121 (+)	97 (-) 日 96 (-) 才 98 (○) 太 98 (○)
東日本	1.1 (+)*	107 (○) 日 115 (+) 太 105 (○)	112 (+)* 日 111 (+)* 太 112 (+)*	東北	0.8 (+)*	105 (+) 日 115 (+) 太 98 (○)	105 (+) 日 104 (+) 太 106 (+)
西日本	0.6 (+)	119 (+)* 日 108 (+) 太 127 (+)*	108 (+)* 日 110 (+)* 太 107 (+)*	関東甲信	1.3 (+)*	100 (○)	112 (+)*
沖縄・奄美	0.3 (+)	116 (+)	107 (+)*	北陸	0.8 (+)*	115 (+)	111 (+)*
				東海	1.0 (+)*	112 (+)	111 (+)*
				近畿	0.8 (+)*	133 (+)* 日 122 (+)* 太 137 (+)*	111 (+)* 日 114 (+)* 太 110 (+)*
				中国	0.6 (+)	122 (+)* 陰 113 (+) 陽 132 (+)*	109 (+)* 陰 110 (+)* 陽 108 (+)*
				四国	0.5 (+)	131 (+)*	107 (+)*
				九州北部	0.6 (+)	103 (○)	109 (+)*
				九州南部 ・奄美	0.3 (+) 本 0.4 (+) 奄 0.3 (+)	112 (+) 本 113 (+) 奄 112 (+)	104 (+) 本 104 (+) 奄 105 (+)
				沖縄	0.3 (+)	117 (+)	108 (+)*

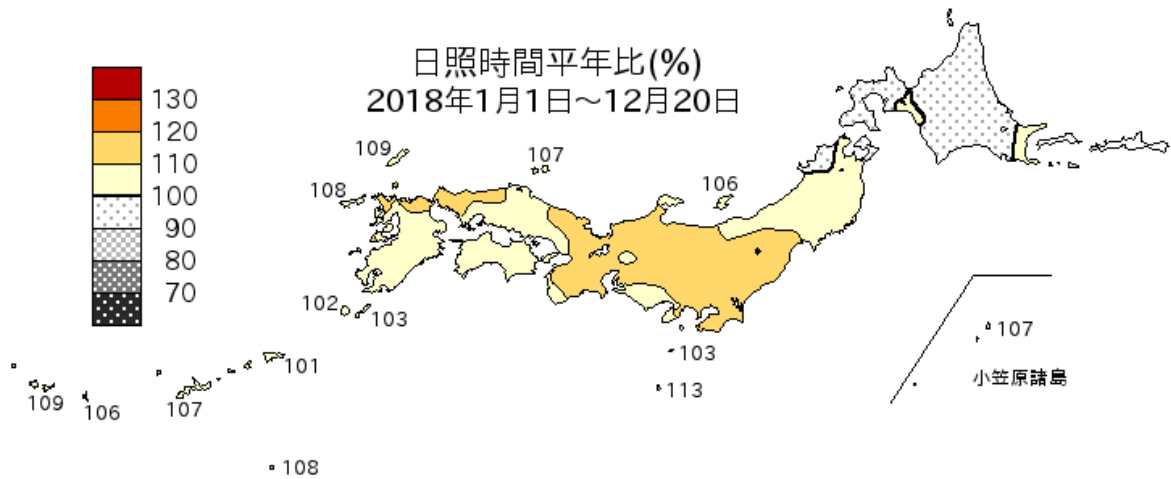
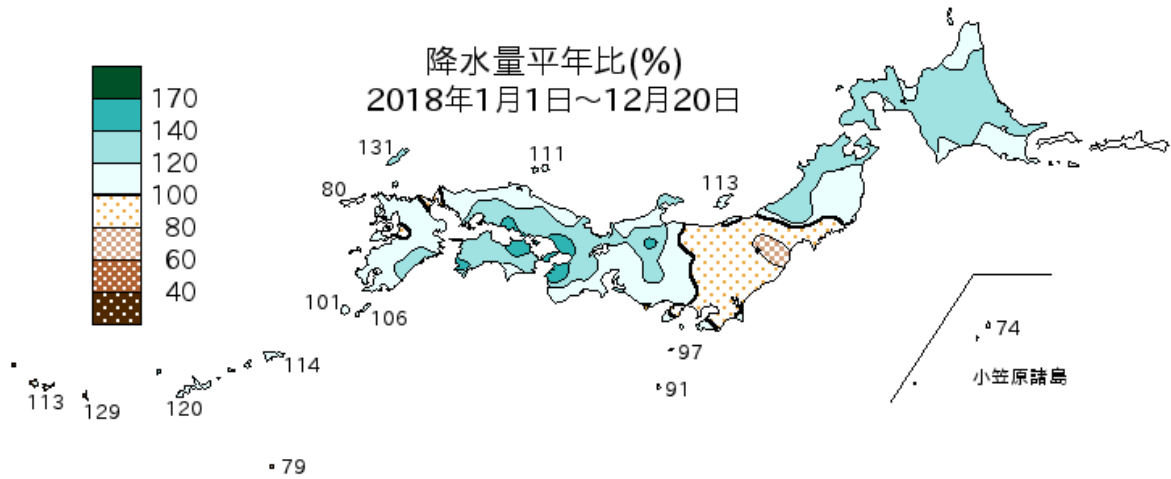
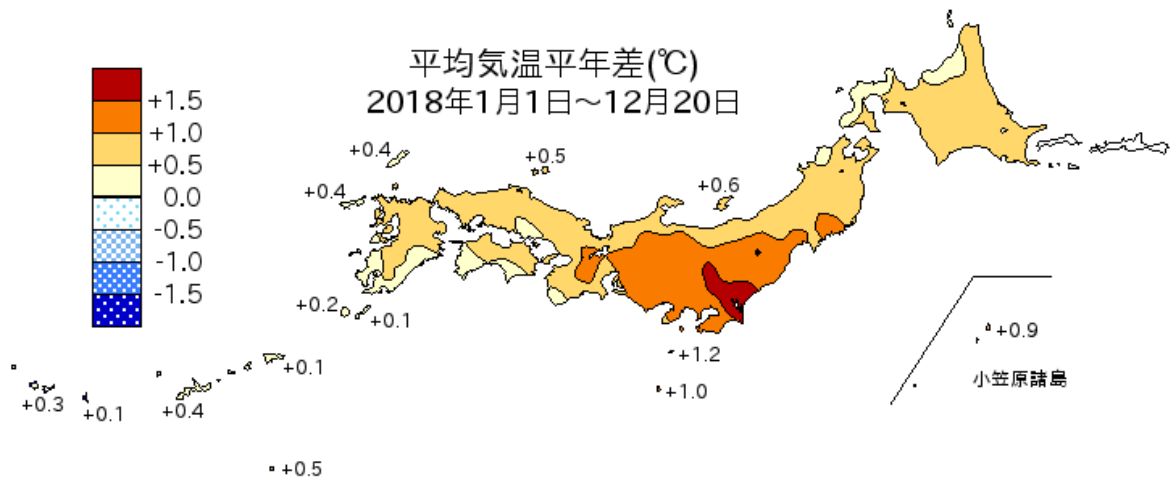
階級表示 -:低い(少ない) 0:平年並 +:高い(多い)
*はかなり低い(少ない)、かなり高い(多い)を表す

地域表示 日:日本海側 陰:山陰 本:本土(九州南部)
才:オホーツク海側 陽:山陽 奄:奄美
太:太平洋側

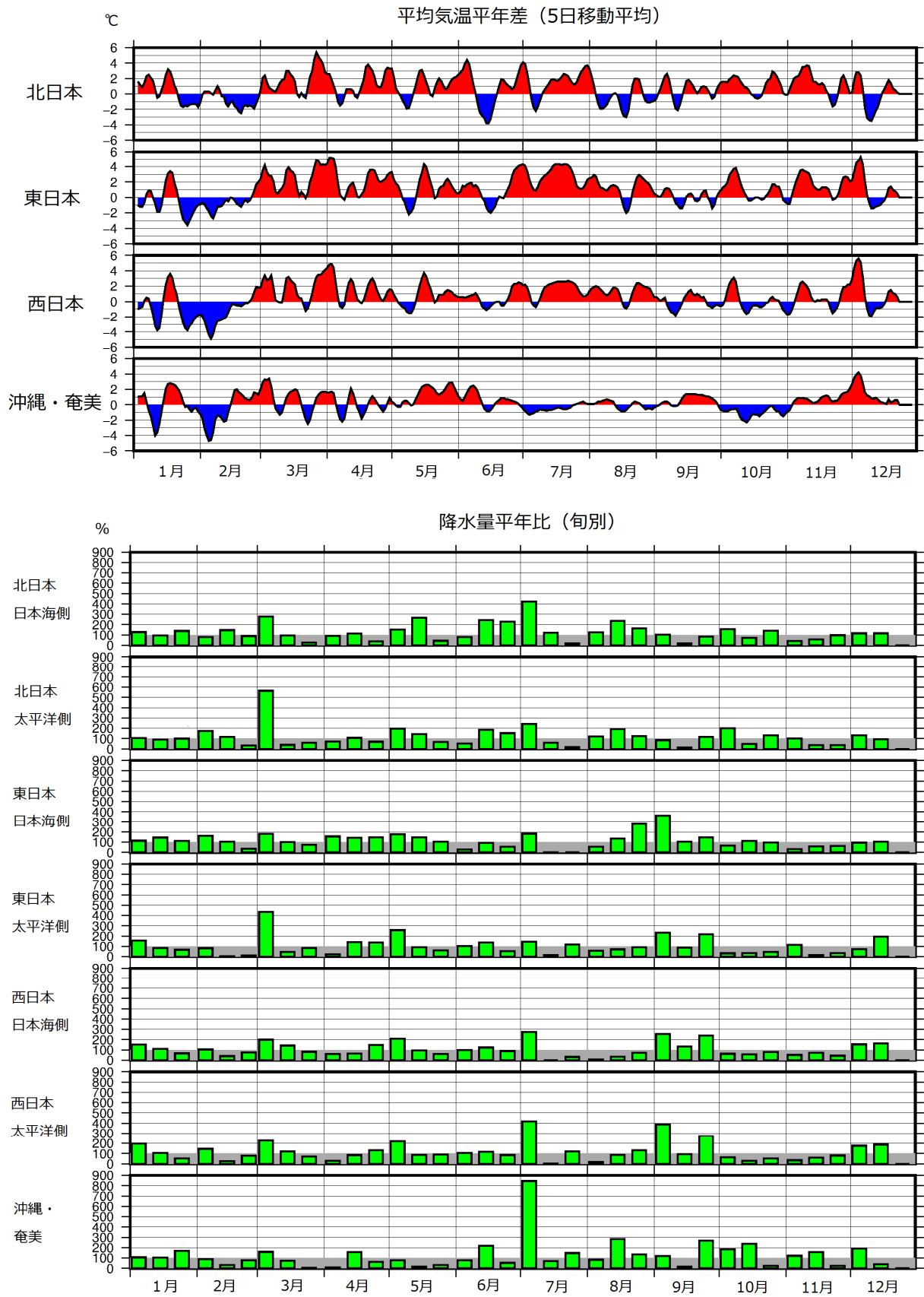
(注)・基礎となるデータは全国の気象台等での観測値で、観測所数は153 地点である。

- ・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981~2010 年における30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10 個ずつになる)ように決めている。また、値が1981~2010 年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。
- ・本文中の北・東・西日本の降水量・日照時間の特徴は、日本海側・太平洋側の階級に基づいて記述している。

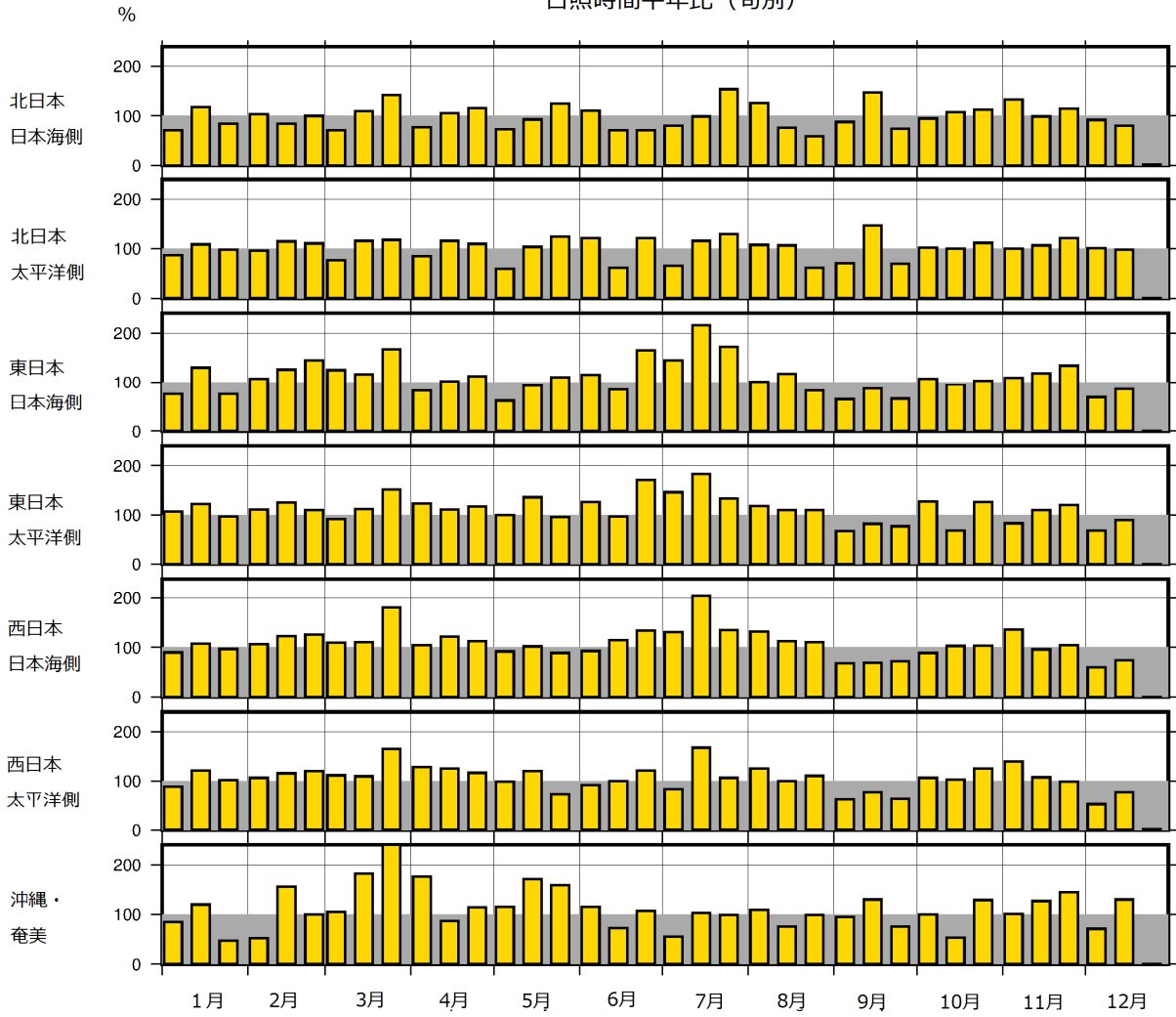
平年差（比）図（2018年）（12月20日までのデータによる）



地域平均平年差（比）の経過（2018年）（12月20日までのデータによる）



日照時間平年比（旬別）



観測史上1位の値(月、3か月、年別値)の更新地点数

- ・全国153地点(降雪の深さ、最深積雪は105地点)の気象台等の統計値の中で、観測史上1位となった地点数を記載した。
- ・値は1位を更新した地点数でタイ記録は含めない、タイ記録がある場合には「値タイ」として横に併記した
- ・地域は更新およびタイ記録の地点数の合計が5以上の地域を記載した

	平均気温		降水量		日照時間		降雪の深さ	最深積雪
	高い方から	低い方から	多い方から	少ない方から	多い方から	少ない方から	多い方から	大きい方から
1月							1タイ	
2月				4	3			
冬					5		1	
3月	46、14タイ 北、東、西		9		29 東、西、沖奄			
4月	20、1タイ 北、東			1、1タイ	2			
5月	1タイ		1	1	1			
春	30、12タイ 北、東、西		2	1	3			
6月			1	4	2			
7月	47、6タイ 北、東、西		1		5 東	1		
8月	6、6タイ 西		2	2	1			
夏	36、12タイ 東、西		1		6 東太			
9月	1		7 西	6 北		4		
10月	4タイ							
11月				6	4			
秋	1、1タイ							
年(速報) 2018年	25、3タイ 東		3		6、3タイ 東太			

平均気温の地域表示

北：北日本
東：東日本
西：西日本
沖奄：沖縄・奄美

降水量、日照時間、降雪の深さ、最深積雪の地域表示

北：北日本
東：東日本
西：西日本
沖奄：沖縄・奄美
北日：北日本日本海側
東日：東日本日本海側
西日：西日本日本海側
北太：北日本太平洋側
東太：東日本太平洋側
西太：西日本太平洋側

各地方の梅雨入り・明けと梅雨の時期の降水量

地方名	梅雨入り(注1)	平 年	梅雨明け(注1)	平 年	梅雨の時期の降水量 量 平年比 (注2)
沖 縄	6月 1日ごろ(+)*	5月 9日ごろ	6月 23日ごろ(0)	6月23日ごろ	71%(-)
奄 美	5月 27日ごろ(+)*	5月11日ごろ	6月 26日ごろ(0)	6月29日ごろ	116%(+)
九州南部	6月 5日ごろ(+)	5月31日ごろ	7月 9日ごろ(-)	7月14日ごろ	128%(+)
九州北部	6月 5日ごろ(0)	6月 5日ごろ	7月 9日ごろ(-)	7月19日ごろ	110%(0)
四 国	6月 5日ごろ(0)	6月 5日ごろ	7月 9日ごろ(-)	7月18日ごろ	156%(+)*
中 国	6月 5日ごろ(-)	6月 7日ごろ	7月 9日ごろ(-)*	7月21日ごろ	119%(+)
近 畿	6月 5日ごろ(-)	6月 7日ごろ	7月 9日ごろ(-)*	7月21日ごろ	162%(+)*
東 海	6月 5日ごろ(-)	6月 8日ごろ	7月 9日ごろ(-)*	7月21日ごろ	110%(0)
関東甲信	6月 6日ごろ(-)	6月 8日ごろ	6月 29日ごろ(-)*	7月21日ごろ	92%(0)
北 陸	6月 9日ごろ(0)	6月12日ごろ	7月 9日ごろ(-)*	7月24日ごろ	70%(-)
東北南部	6月10日ごろ(0)	6月12日ごろ	7月14日ごろ(-)*	7月25日ごろ	43%(-)*
東北北部	6月11日ごろ(0)	6月14日ごろ	7月19日ごろ(-)	7月28日ごろ	99%(0)

(注1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「 日ごろ」と表現した。記号の意味は、(+)*: かなり遅い、(+): 遅い、(0): 平年並、(-): 早い、(-)*: かなり早い、の階級区分を表す。

(注2) 全国153の气象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美は5~6月。)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)*: かなり多い、(+): 多い、(0): 平年並、(-): 少ない、(-)*: かなり少ない、の階級区分を表す。

階級区分は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%	33%	33%
	10%		10%
梅雨入り・明け	遅い かなり遅い	平年並	早い かなり早い
降水量	少ない かなり少ない	平年並	多い かなり多い

3 季節別の天候経過

冬（2017年12月～2018年2月）:

全国的に寒冬だった

日本海側の降雪量は西日本ではかなり多く、東日本でも多かった

東日本太平洋側では日照時間がかなり多かった

日本付近に強い寒気の流れ込むことが多く、全国的に冬の気温が低かった。特に西日本は気温平年差が-1.2で、-2.1を記録した1985/86年の冬以降の32年間で最も寒い冬となった。

西日本を中心に寒気の流れ込み冬型の気圧配置がしばしば強まったため、冬の降雪量は西日本日本海側ではかなり多く、東日本日本海側でも平野部を中心に多かった。12月中・下旬は北日本や東日本日本海側を中心に、発達した低気圧やその後の強い寒気により大雪となった。1月中旬は強い寒気の流れ込んで北陸地方を中心に大雪に見舞われ、新潟（新潟県）では8年ぶりに積雪が80cmに達した。1月下旬は、本州の南岸を発達しながら通過した低気圧により東京（東京都）で4年ぶりに積雪が20cmを超えるなど、関東甲信地方や東北太平洋側でも大雪となった。2月上・中旬は発達した雪雲が日本海から盛んに流れ込み、福井（福井県）で日最深積雪が37年ぶりに140cmを超えるなど、北陸地方を中心に積雪が多い所で平年の6倍を超える記録的な大雪となった。

冬型の気圧配置が卓越したため、冬の日照時間は、東日本太平洋側ではかなり多く西日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美では少なかった。

平均気温：全国的に低かった。

降水量：東日本日本海側ではかなり多く、北日本日本海側でも多かった。一方、東日本太平洋側と西日本日本海側および沖縄・奄美では少なかった。北・西日本太平洋側は平年並だった。

日照時間：東日本太平洋側ではかなり多く、西日本太平洋側でも多かった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美は少なかった。北日本太平洋側と東・西日本日本海側では平年並だった。

春（3～5月）:

全国的に気温がかなり高く、東日本では記録的な高温となった

降水量は北・東・西日本で多く、沖縄・奄美でかなり少なかった

日照時間は東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美でかなり多かった

日本付近への寒気の南下が弱く、期間を通して暖かい空気に覆われやすかったため、全国的に気温の高い状態が概ね持続し、北・東・西日本の3月～5月の月平均気温はいずれも高かった。春の平均気温は全国的に高く、特に東日本では平年差が+2.0となり、春としては統計を開始した1946年以降で1位の高温となった。

日本付近は高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化したが、東日本以南では高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かったため、日照時間が多く、東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美ではかなり多かった。低気圧の通過時は、南から湿った空気が流れ込んだため、大雨となることが多く、北・東・西日本の降水量は多かった。一方、沖縄・奄美では、湿った空気や低気圧の影響を受けにくかったため、降水量がかなり少なかった。

平均気温：全国的にかなり高かった。

降水量：北・東日本日本海側でかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本で多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なかった。

日照時間：東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美でかなり多く、東日本日本海側で多かった。北日本では平年並だった。

夏(6~8月):

東・西日本は、記録的な高温となった

北日本日本海側と西日本太平洋側および沖縄・奄美は、降水量がかなり多かった

「平成30年7月豪雨」など、全国各地で大雨となった

6月は梅雨前線が西日本の南岸～東日本の南海上に位置することが多かったため、西日本日本海側や東日本は曇りや雨の日が少なかった。一方、北海道地方は低気圧や前線の影響を受けやすく、6月中・下旬には大雨の日もあって月降水量がかなり多かった。

6月終わりは太平洋高気圧が日本の南東海上で強まって関東甲信地方は記録的に早い梅雨明けとなったが、7月はじめにかけて、活動の活発な梅雨前線や台風第7号の影響を受けて西日本を中心に全国の広い範囲で記録的な大雨となり、「平成30年7月豪雨」が発生した。

その後、西～北日本では平年より早く梅雨明けして盛夏となり、太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しがともに強く、晴れて気温が顕著に上昇する日が多かった。

8月は東・西日本では晴れて気温の高い日が多かったが、北日本と沖縄・奄美を中心に秋雨前線や台風の影響で度々大雨になった。北日本では8月各旬に秋雨前線の影響で、沖縄・奄美では8月中・下旬に台風14・18・19号の影響で大雨の日があったほか、東日本は8月後半に秋雨前線などの影響で、西日本は8月下旬に台風第19・20号の影響で大雨になった日があった。

この夏に発生した台風は18個で、1951年の統計開始以降では1994年と並んで1位タイの多さになった。台風第6号は6月15～16日に沖縄地方を東進し、沖縄・奄美で記録的な大雨となった。台風第7号は沖縄・奄美から九州の西海上を北進して日本海へ進み、「平成30年7月豪雨」の一因になった。台風第12号は7月29日に志摩半島へ東から上陸した後、西日本を西進して8月2日にかけて沖縄・奄美付近に位置し、東・西日本～沖縄・奄美の広い範囲で大荒れや大雨となった。台風第20号は8月23～24日に西日本を縦断して日本海へ進み、西日本を中心に大荒れや大雨になった所があったほか、北・東・西日本日本海側ではフェーン現象により気温が顕著に上昇して北陸地方で統計開始以来初めて40以上を記録した。

夏の平均気温は東・西日本ではかなり高く、東日本は平年差が+1.7℃となって1946年の統計開始以来最も高かったほか、全国の気象官署153地点のうち48地点で高い方から1位の値を記録した(タイを含む)。全国のアメダス地点で観測された猛暑日地点数の積算は6,479地点で、9月上旬にかけて記録的な高温が続いた2010年の5,014地点を超えた。また、7月23日には熊谷(埼玉県)で日最高気温が41.1℃となり歴代全国1位を更新したほか、全国の観測点927地点のうち202地点で通年の日最高気温が高い記録を更新した(タイを含む)。

夏の降水量は、北日本日本海側と西日本太平洋側および沖縄・奄美でかなり多かった。このうち沖縄・奄美の夏の降水量は、平年比が177%となって1946年の統計開始以来最も多くなった。夏の日照時間は、東日本と西日本日本海側ではかなり多かった。

平均気温：東・西日本でかなり高く、北日本で高かった。沖縄・奄美で平年並だった。

降水量：北日本日本海側と西日本太平洋側および沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側で多かった。東日本と西日本日本海側で平年並だった。

日照時間：東日本と西日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。北日本太平洋側で平年並だった。

秋(9~11月):

気温は、北・東日本で高かった

降水量は東日本から沖縄・奄美にかけては多かった

日照時間は、東日本と西日本日本海側で少なく、北日本と沖縄・奄美で多かった

9月は日本の南東海上で太平洋高気圧の勢力が強く、西日本付近に停滞する秋雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込みやすかった。また、台風第21号、第24号、第25号が日本に接近あるいは上陸し、秋雨前線の活動が活発となって、広い範囲で大雨、暴風、高潮、高波となった。10月と11月は、全国的に天気は数日の周期で変化した。

秋の降水量は東日本から沖縄・奄美にかけては多く、東日本と西日本日本海側では日照時間が少なかった。沖縄・奄美は、台風や前線の影響で秋の降水量は多くなったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かったことから、日照時間も多かった。一方、北日本では、9月は高気圧に覆われやすく、11月は寒気や気圧の谷の影響を受けにくかったため、秋の降水量は少なく、日照時間は多かった。

気温は、暖かい空気に覆われやすかった北・東日本では高かった。西日本は、気温の変動はあったが、平均すると平年並だった。沖縄・奄美は、9月は暖かい空気が流れ込みやすく気温がかなり高かったが、10月は冷たい空気が入りやすく気温がかなり低くなり、秋としては平年並だった。

平均気温：北・東日本で高かった。西日本と沖縄・奄美では平年並だった。

降水量：東・西日本と沖縄・奄美で多かった。一方、北日本では少なかった。

日照時間：東日本と西日本日本海側で少なかった。一方、北日本と沖縄・奄美では多かった。西日本太平洋側は平年並だった。

4 全国気候表 2018年

(12月20日までのデータによる)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
札幌	9.9	(+0.6)	1252.0	(118)	149	1717.6	(101)
稚内	7.7	(+0.5)	1096.0	(107)	158	1466.2	(99)
北見枝幸	7.0	(+0.6)	1337.0	(120)	171	1468.3	(96)
旭川	7.9	(+0.6)	1397.5	(138)	162	1490.6	(95)
留萌	8.5	(+0.4)	1360.5	(125)	162	1507.5	(99)
羽幌	8.5	(+0.4)	1410.5	(114)	176	1471.2	(94)
岩見沢	8.7	(+0.6)	1387.0	(124)	152	1605.9	(95)
倶知安	7.9	(+0.5)	1807.0	(128)	187	1401.5	(97)
小樽	9.4	(+0.5)	1391.0	(118)	162	1546.4	(96)
寿都	9.4	(+0.4)	1436.0	(126)	171	1340.8	(95)
網走	7.5	(+0.6)	935.5	(122)	120	1835.9	(100)
紋別	7.4	(+0.7)	1022.0	(129)	127	1651.4	(98)
雄武	6.7	(+0.6)	1073.5	(127)	123	1604.5	(98)
釧路	7.5	(+0.9)	1136.5	(111)	105	1848.9	(97)
根室	7.3	(+0.7)	1171.5	(117)	115	1829.4	(102)
帯広	8.0	(+0.8)	1107.0	(127)	98	1912.4	(97)
広尾	8.2	(+1.0)	1855.5	(111)	130	1672.8	(95)
室蘭	9.7	(+0.8)	1347.0	(116)	151	1645.2	(97)
苫小牧	8.7	(+0.7)	1453.0	(123)	123	1684.7	(102)
浦河	8.8	(+0.5)	1314.5	(124)	124	1665.8	(93)
函館	10.2	(+0.7)	1558.0	(139)	145	1678.5	(98)
江差	10.8	(+0.4)	1423.0	(123)	159	1354.7	(94)
青森	11.5	(+0.8)	1513.5	(121)	163	1621.9	(102)
深浦	11.5	(+0.4)	1811.5	(128)	154	1384.7	(96)
むつ	10.6	(+0.7)	1650.5	(127)	148	1553.7	(98)
八戸	11.3	(+0.8)	1177.0	(117)	94	1825.3	(100)
秋田	12.8	(+0.7)	1985.0	(122)	159	1510.9	(100)
盛岡	11.5	(+0.9)	1322.0	(106)	120	1728.1	(105)
大船渡	12.8	(+1.2)	1513.5	(99)	102	1746.9	(103)
宮古	11.5	(+0.6)	1361.0	(105)	94	1856.9	(101)
仙台	14.0	(+1.3)	1081.0	(87)	106	1942.5	(111)
石巻	12.8	(+0.9)	929.5	(88)	94	2004.7	(106)
山形	13.0	(+0.9)	1070.0	(95)	131	1736.9	(110)
新庄	11.8	(+0.7)	2351.5	(132)	171	1423.0	(108)
酒田	13.6	(+0.6)	2323.5	(128)	166	1529.1	(100)
福島	14.6	(+1.2)	797.5	(69)	98	1880.3	(111)
若松	13.2	(+1.1)	935.5	(80)	138	1806.6	(114)
白河	13.1	(+1.2)	1207.5	(86)	102	1970.2	(114)
小名浜	15.0	(+1.3)	1391.5	(100)	94	2171.6	(110)
水戸	15.7	(+1.7)	1280.0	(96)	105	2127.9	(115)
館野(つくば)	15.7	(+1.6)	1094.5	(86)	97	2081.5	(113)
宇都宮	15.7	(+1.5)	1257.0	(85)	101	2082.5	(113)
日光	8.5	(+1.2)	2130.5	(99)	110	1888.1	(110)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
前橋	16.5	(+1.6)	1046.5	(84)	94	2309.3	(113)
熊谷	16.9	(+1.6)	1056.0	(83)	86	2234.2	(114)
秩父	14.9	(+1.4)	1319.0	(100)	89	2110.2	(116)
東京	17.1	(+1.4)	1444.5	(95)	103	2041.3	(113)
大島	17.6	(+1.2)	2929.5	(105)	117	1834.7	(105)
三宅島	19.1	(+1.2)	2806.5	(97)	134	1722.4	(103)
八丈島	19.0	(+1.0)	2850.5	(91)	150	1538.3	(113)
父島	24.2	(+0.9)	931.0	(74)	103	2129.2	(107)
千葉	17.5	(+1.5)	1257.0	(92)	94	2058.1	(112)
銚子	17.2	(+1.5)	1668.0	(102)	113	2115.1	(111)
館山	17.5	(+1.3)	1886.0	(107)	116	2114.7	(113)
勝浦	17.2	(+1.2)	1991.0]	()	102	2048.1	(110)
横浜	17.5	(+1.4)	1569.5	(94)	102	2135.1	(113)
長野	13.5	(+1.2)	877.0	(96)	107	2085.5	(110)
松本	13.6	(+1.4)	1047.5	(102)	91	2294.7	(113)
諏訪	12.8	(+1.3)	1426.5	(112)	101	2340.3	(113)
軽井沢	9.7	(+1.1)	1239.0	(101)	108	2157.6	(115)
飯田	14.2	(+1.1)	1979.0	(124)	120	2172.6	(111)
甲府	16.4	(+1.3)	1153.5	(102)	84	2319.6	(110)
河口湖	12.2	(+1.3)	1867.5	(120)	102	2135.3	(113)
静岡	18.0	(+1.1)	2428.0	(105)	104	2146.2	(106)
浜松	17.7	(+1.0)	2132.5	(119)	107	2292.9	(109)
御前崎	17.7	(+1.0)	1954.0	(96)	98	2343.5	(108)
三島	17.5	(+1.3)	1856.0	(100)	103	2049.8	(109)
石廊崎	17.8	(+0.9)	1730.5]	()	98	2067.6]	()
網代	17.4	(+1.1)	1888.5	(96)	107	1945.3	(112)
名古屋	17.3	(+1.1)	1679.0	(111)	108	2270.9	(112)
伊良湖	17.3	(+1.0)	1920.0	(121)	106	2324.4	(109)
岐阜	17.3	(+1.1)	2068.5	(115)	111	2218.4	(109)
高山	12.6	(+1.2)	2363.0	(142)	134	1808.3	(114)
津	17.2	(+0.9)	1700.5	(108)	105	2274.7	(112)
上野	15.6	(+1.0)	1710.0	(127)	110	2017.8	(118)
尾鷲	17.2	(+0.8)	4357.5	(114)	124	2113.8	(112)
四日市	16.1	(+0.9)	1858.5	(109)	114	2119.3	(111)
新潟	14.7	(+0.7)	1746.5	(100)	167	1678.4	(104)
相川	14.8	(+0.6)	1649.0	(113)	150	1702.6	(106)
高田	14.7	(+0.7)	2442.5	(94)	179	1755.6	(112)
富山	15.4	(+1.0)	2684.0	(121)	171	1779.0	(113)
伏木	15.1	(+0.8)	2490.0	(117)	179	1800.6	(113)
金沢	15.9	(+0.9)	2680.5	(116)	176	1858.3	(112)
輪島	14.6	(+0.8)	2675.0	(133)	174	1665.6	(108)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
福井	15.7	(+0.8)	2556.0	(119)	165	1817.7	(114)
敦賀	16.5	(+0.9)	2484.0	(123)	163	1748.3	(114)
彦根	16.0	(+1.0)	1801.5	(117)	119	2029.5	(113)
京都	17.3	(+1.1)	1759.5	(119)	105	1934.5	(112)
舞鶴	15.6	(+0.7)	2383.0	(134)	138	1716.3	(114)
大阪	17.8	(+0.6)	1643.0	(130)	94	2210.3	(114)
神戸	17.7	(+0.6)	2030.5	(169)	95	2193.1	(109)
豊岡	15.6	(+0.9)	2229.0	(115)	157	1663.7	(114)
姫路	16.3	(+0.7)	1665.0	(140)	88	2146.3	(108)
洲本	16.6	(+0.8)	2205.0	(158)	97	2110.2	(105)
奈良	16.6	(+1.4)	1630.5	(125)	108	2021.8	(114)
和歌山	17.7	(+0.7)	1937.5	(149)	92	2249.7	(111)
潮岬	17.8	(+0.2)	2708.5	(109)	126	2351.2	(108)
岡山	16.6	(+0.1)	1401.5	(128)	82	2177.1	(110)
津山	14.8	(+0.8)	1958.0	(140)	97	1906.9	(110)
広島	17.2	(+0.6)	1871.5	(123)	79	2129.3	(107)
呉	17.1	(+0.6)	1753.0	(128)	77	2146.2	(107)
福山	16.3	(+0.6)	1577.0	(142)	89	2197.3	(107)
松江	16.0	(+0.8)	1916.5	(110)	140	1829.2	(110)
西郷	15.1	(+0.5)	1938.5	(111)	127	1839.7	(107)
浜田	16.3	(+0.5)	1935.0	(119)	107	1932.4	(112)
鳥取	16.1	(+0.9)	2111.0	(114)	143	1806.3	(110)
米子	16.2	(+0.9)	1904.0	(110)	137	1879.8	(110)
境	16.1	(+0.6)	2145.5	(116)	144	1801.8	(106)
徳島	17.4	(+0.5)	1747.0	(121)	104	2243.4	(110)
高松	17.3	(+0.7)	1572.0	(147)	93	2199.7	(110)
多度津	17.1	(+0.5)	1634.0	(154)	93	2236.1	(109)
松山	17.5	(+0.7)	1792.0	(138)	88	2121.5	(108)
宇和島	17.5	(+0.4)	2154.5	(132)	113	1929.5	(102)
高知	17.8	(+0.5)	3070.5	(121)	111	2209.7	(106)
宿毛	17.8	(+0.5)	2927.0	(150)	115	2136.3	(105)
清水	18.7	(+0.2)	2913.5	(119)	122	2236.6	(104)
室戸岬	17.2	(+0.2)	2340.5	(102)	119	2200.3	(104)
山口	16.3	(+0.6)	1931.0	(103)	104	1987.8	(111)
下関	17.5	(+0.5)	1554.0	(94)	87	2026.2	(110)
萩	16.4	(+0.6)	1676.5	(103)	97	1907.3	(113)
福岡	18.1	(+0.8)	1606.0	(101)	109	2054.5	(112)
飯塚	16.6	(+0.6)	1788.5	(102)	94	1968.0	(110)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
大分	17.4	(+0.7)	1656.5	(101)	99	2090.6	(107)
日田	16.6	(+0.8)	1863.5	(104)	103	1918.0	(109)
長崎	18.0	(+0.5)	1815.0	(99)	105	1946.1	(107)
厳原	16.5	(+0.4)	2905.5	(131)	84	1972.2	(109)
平戸	16.9	(+0.5)	2188.0	(105)	104	1878.1]	()
佐世保	18.0	(+0.7)	1980.5	(103)	103	2079.1	(111)
雲仙岳	13.6	(+0.5)	3020.0	(105)	116	1579.3	(112)
福江	17.5	(+0.4)	1852.0	(80)	120	1867.8	(108)
佐賀	17.8	(+1.0)	1874.0	(101)	103	2081.7	(108)
熊本	17.9	(+0.6)	1942.0	(99)	97	2035.7	(104)
人吉	16.5	(+0.6)	2790.5	(118)	120	1808.3	(102)
牛深	18.8	(+0.5)	2155.5	(111)	117	2112.5	(111)
宮崎	18.2	(+0.4)	3144.0	(126)	129	2133.2	(104)
延岡	17.2	(+0.3)	2848.5	(125)	116	2158.4	(105)
都城	17.4	(+0.6)	2918.5	(119)	130	1947.6	(104)
油津	18.6	(+0.1)	2718.5	(105)	134	1908.5	(101)
鹿児島	19.3	(+0.4)	2374.5	(106)	111	1993.5	(105)
阿久根	18.0	(+0.4)	2431.5	(120)	111	2059.1	(108)
枕崎	18.7	(+0.3)	2279.0	(106)	123	1948.2	(103)
屋久島	19.9	(+0.2)	4436.5	(101)	163	1537.4	(102)
種子島	20.0	(+0.1)	2465.0	(106)	135	1826.8	(103)
名瀬	22.0	(+0.1)	3153.0	(114)	163	1351.0	(101)
沖永良部	22.8	(+0.2)	1993.0	(111)	121	2000.2	(109)
那覇	23.6	(+0.4)	2403.5	(120)	124	1856.9	(107)
名護	23.2	(+0.4)	2261.5	(114)	134	1824.3	(106)
久米島	23.5	(+0.4)	2606.5	(126)	120	1885.4	(109)
宮古島	23.9	(+0.1)	2542.5	(129)	134	1832.3	(106)
石垣島	24.7	(+0.3)	2331.0	(113)	132	1975.7	(109)
西表島	24.2	(+0.4)	2309.0	(103)	146	1877.1	(110)
与那国島	24.2]	()	2237.0	(98)	151	1745.0]	()
南大東島	23.9	(+0.5)	1211.5	(79)	103	2245.7	(108)

- (注) 1. これらは12月20日までの観測値を使った集計結果である。
2. 値の横に] がある場合(資料不足値)には、統計期間内のデータに欠測等統計に用いなかった値が含まれているので注意されたい。
3. 平年差(比)は同期間の日別平年値を平均・合計したのものに対する差(比)である。

5 平年差（比）が観測史上1位を上回っている地点

（12月20日までのデータによる）

過去の平年差（比）と同値は「=」で表す。

年平均気温の平年差が最高値を上回っている地点

地点名	2018年（12月20日まで）			これまでの最高 平年差(西暦年)	開始年
	平年差	値	平年値*		
仙台	+1.3=	14.0	12.7	+1.3 (2015)	1926
白河	+1.2	13.1	11.9	+1.0 (2016)	1940
小名浜	+1.3	15.0	13.7	+1.1 (2016)	1910
水戸	+1.7	15.7	14.0	+1.2 (2016)	1897
館野(つくば)	+1.6	15.7	14.1	+1.1 (2016)	1921
宇都宮	+1.5	15.7	14.2	+1.1 (2015)	1890
日光	+1.2	8.5	7.3	+1.1 (2016)	1944
前橋	+1.6	16.5	14.9	+1.0 (2016)	1896
熊谷	+1.6	16.9	15.3	+1.1 (2004)	1896
秩父	+1.4	14.9	13.5	+1.0 (2015)	1926
大島	+1.2	17.6	16.4	+1.0 (2004)	1938
三宅島	+1.2	19.1	17.9	+1.0 (2004)	1942
千葉	+1.5	17.5	16.0	+1.1 (2016)	1966
銚子	+1.5	17.2	15.7	+1.3 (1979)	1887
館山	+1.3	17.5	16.2	+0.9 (2016)	1968
勝浦	+1.2	17.2	16.0	+1.1 (2016)	1906
横浜	+1.4	17.5	16.1	+1.1 (2016)	1896
松本	+1.4	13.6	12.2	+1.3 (2016)	1898
諏訪	+1.3	12.8	11.5	+1.1 (2016)	1945
軽井沢	+1.1	9.7	8.6	+1.0 (2004)	1925
飯田	+1.1	14.2	13.1	+1.0 (2016)	1897
甲府	+1.3	16.4	15.1	+1.1 (2004)	1894
河口湖	+1.3	12.2	10.9	+1.1 (2016)	1933
静岡	+1.1=	18.0	16.9	+1.1 (2016)	1940
三島	+1.3	17.5	16.2	+1.0 (2016)	1930
網代	+1.1	17.4	16.3	+1.0 (2004)	1937
岐阜	+1.1=	17.3	16.2	+1.1 (2016)	1883
奈良	+1.4	16.6	15.2	+1.1 (2016)	1953

年降水量の平年比が最大値を上回っている地点

地点名	2018年（12月20日まで）			これまでの最大 平年比(西暦年)	開始年
	平年比	値	平年値*		
	%	mm	mm	%	
高山	142	2363.0	1664.7	140 (1945)	1899
神戸	169	2030.5	1203.9	145 (1935)	1896
宿毛	150	2927.0	1953.5	147 (1950)	1943

年間日照時間の平年比が最大値を上回っている地点

地名	2018年(12月20日まで)			これまでの最大 平年比(西暦年)	開始年
	平年比 %	値 h	平年値* h		
秩父	116	2110.2	1824.1	115 (2013)	1926
館山	113	2114.7	1876.6	112 (2014)	1968
諏訪	113	2340.3	2062.6	111 (2013)	1945
網代	112=	1945.3	1738.0	112 (1995)	1937
高山	114=	1808.3	1593.2	114 (1943)	1902
上野	118	2017.8	1712.3	115 (2013)	1937
神戸	109=	2193.1	2015.9	109 (1942)	1897
沖永良部	109	2000.2	1840.6	107 (1977)	1969
西表島	110	1877.1	1712.2	107 (2009)	1958

(注) これらは12月20日までの観測値を使った集計結果であるので、年末までのデータを加えた確定値では変わる可能性がある。

値の横に「=」がある場合(資料不足値)には、統計期間内のデータに欠測等統計に用いなかった値が含まれている。順位は極値順位以上になることは
 確実であるが、統計値の使用に際しては注意されたい。

平年値(*)は日別平年値を平均・合計したものである。

平年値とは1981~2010年の30年間の値を平均したものである。